

繋 谷地南部っ子

令和7年度 学校便り
R7. 10. 14
NO 15
校長 秋場 一憲



経営キーワード「言葉（言葉遣い・言語力）」・自立（自ら判断実践・協働的解決・新たな課題追究）」

心のモヤモヤがあったら、SOS を！！

いじめや不登校、自殺等に繋がる可能性がある子供たちのサイン（SOS）を見逃さないよう全教職員体制で見守り、毎週の職員打合せ後の子どもを語る会で情報共有を図っています。そのような中、町教育委員会と健康福祉課主催の「SOSの出し方講座」を5年生対象に開催しました。講師は町スクールカウンセラーの西塚かずみ氏です。講座の中で、西塚先生から心のモヤモヤ感があったら、信頼できる大人3名を決めて相談すること、相談してスッキリしたという成功体験を積み重ねていくことの大切さを教えていただきました。また、信頼できるかもしれない人の条件並びに保護者の皆様に伝えたいこともお聞きし右下に記載しましたので、ぜひお読みください。



二人組になって、相談の疑似体験



担任も信頼できる人の一人です

【信頼できるかもしれない人】

- 意見を聞いてくれる人
- 意見を押し付けない人
- あなたの気持ちを分かってくれる人

【保護者の皆様へ】

お子さんから相談を受けたら、まず気持ちを受け止め、理解（するよう努力）して欲しい。

子どもの思いや願い、アイデアを生かした学校経営を

「校長先生、学校をもっと明るくしたいと思い万博の『ミャクミャク』をモチーフにした飾りを作ったので、図書室に飾っていいですか？」10月のある朝、2年女児が素敵な飾りを見せてくれました。詳しく話を聞くと、図書の本をみんなが大切に扱うように、メッセージも付け加える予定とのこと。何と素晴らしい取組みでしょう。早速、図書主任に話をし、図書室に飾ることにしました。子供たちのアイデアと行動力に感心しています。これからも子供たちの声に真摯に耳を傾け、一緒に明るく楽しい学校づくりを進めていきます。



笑顔で飾りを見せてくれた2年生



素敵です！！

若手・新任教職員&町職員紹介シリーズ 第2弾

今回紹介する職員は、学習生活指導補助員です。担任の学習・生活指導を支援する業務を担い、今年度は1名増の4名配置されています。基本は、担任がすべての子供たちの指導にあたりますが、よりきめ細やかに子どもを見取り、一人一人に合った指導・支援を提供することができます。本校規模に4名もの学習生活指導補助員を配置いただいていることに感謝しながら、県費負担教職員と町費負担教職員という枠を超えワンチームとして子供たちへの手厚い指導に努めています。今号では、4名のうち2名を紹介します。

第2弾:鈴木郁子・遠藤愛美 学習生活指導補助員

今年度、本校に赴任した鈴木郁子 学習生活指導補助員。以前に本校勤務経験があります。過去の経験や実績を踏まえ、ふたば1組学級の子供たちの指導・支援を担っていただいています。

特に、子どものつまずきや困り感に寄り添いながら、粘り強い対話を通して子どものやる気を引き出し、次の学習や活動に向き合わせる支援の仕方に大変感心しています。また、担任はもちろん管理職へのきめ細やかな相談・報告も心がけており、子ども理解と組織対応に繋がっています。



対話を大切に

担任と子供たちを繋ぐ役割を果たせるようがんばっています。そして、担任の指導を支える裏方として仕事を行い、子供たちの成長に役立ちたいと思っています。(鈴木 学習生活指導補助員)



笑顔で支援

今年度から本校に赴任した遠藤愛美 学習生活指導補助員は、北谷地小学校から異動してきました。主にふたば1・2組学級の子供たちの指導・支援を担っていただいています。

明るい笑顔を絶やさず、柔らかな口調で子供たちに話しかけており、支援する際の子どもとの距離感に大変感心しています。決して解決方法等押し付けず、子どもに寄り添い思いや考えを引き出しながら、子ども自身が主体的に課題に向き合うよう背中を押していただいています。

友だち思いで、周りへの気配りができる子供たちが多くと感心しています。子供たち一人一人のやる気を引き出す声かけをがんばっていきたいと思います。(遠藤 学習生活指導補助員)

後期縦割り班での活動がスタートしました！！

10月7日(火)に後期縦割り班の顔合わせ会を行いました。思いやりの心や社会力を育む核となる縦割り班活動。新しいメンバーで、どんな活動や交流が進むのか楽しみです。今日から、1年生も交えた縦割り班給食もスタートしました。引き続き子供たちのかかわりを見守り、支えていきたいと思っています。



1年生も堂々と自己紹介



外遊びで交流